

ひろば



創立20周年記念特集号

発行 印西市国際交流協会

新たな20年に向かって **TAKE OFF!**

会長あいさつ

吉原 久雄



当協会は、2001年4月に創立され、今年で20年目を迎えました。外国人市民との交流、異文化理解や多文化共生、さらには市内の小・中学生、高校生のために海外の文化にふれる機会を作ることなどを目標に掲げ、市民の皆様のご協力と市役所のご支援を得ながら活動を行ってまいりました。

ただ、今年は、新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大により、私たちの日常生活は大きく制限されることになりました。外国人の皆さんの中には、言葉の不自由さに加え、日常の習慣や衛生面に対する考えが異なる日本社会での生活に戸惑っている方もいらっしゃるでしょう。何かお困りのことがあれば、どうぞ協会の役員や身近の会員に声をおかけください。

私たちは、外国人の皆さんが、印西市で楽しく充実した生活が送れることを願っています。そのために、皆さんのよき遊び相手・相談相手になりたいと思っております。COVID-19の問題が一段落したら、楽しいイベントを実施する予定です。笑顔でお会いできる日を楽しみにしています。

当協会は、次の20年に向かって新たな一歩を踏み出します。市民の皆様、そして市役所の方々と一緒に、外国人の皆さんにとって住みよい印西市となるよう努力してまいります。

名誉会長あいさつ

印西市長 板倉 正直



印西市の人口は、10万人を突破後も緩やかに増加が続いており、市内在住の外国人市民も現在2,300人と年々増加傾向にあります。

印西市国際交流協会におかれましては、創立20年目を迎え、外国人の方々との各種交流事業、語学講座などの活動を通じて、国際化の推進に大きく寄与されております。また、これらの活動を通じ、市が目指す「日本人と外国人がお互いの文化を認め合い、尊重しながらともに歩める社会」の実現に向けて、重要な一翼を担っていただいているところでございます。

在住外国人の人口は今後も増加することが予測されており、市としてはより一層、印西市国際交流協会との連携・協力が必要と考えております。

コロナ禍の大変厳しい状況ではございますが、多文化共生社会の実現に向けては、印西市国際交流協会のさらなる発展が欠かせません。活動に対する、より多くの市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



歴代会長からのメッセージ

■ 山口 進さん

協会の創立20周年、誠におめでとうございます。20年の歳月の長さと、今の組織化された協会活動をみて、感慨を深くしています。これは市民の皆様と市役所のご支援の賜物でしょう。市役所担当部の肝いりで設立された本協会は、市内の各団体に参加を呼びかけ、「オール印西の力」を結集して活動を開始しました。この「オール印西の力」を忘れることなく、より多くの市民の皆様が参加する協会活動を期待します。

(平成10年～20年在任)

■ 渡邊 正一さん

協会の創立20周年を心よりお祝い申し上げます。会長在任中、私は協会にとって何が一番大事な事なのか、常にその答えを求めて活動していました。そして、「協会活動に参加して楽しいこと」がすべてであるとの結論に至りました。一般市民と外国人市民が気軽に、集う・話す・聞く・食べる・奏でる・踊る、そこに笑いが生まれ、自然と交流が進みます。

今後も楽しい国際交流活動を期待しています。

(平成21年～24年在任)

特集 私と国際交流

笑顔の1元

関村 咲江

「国際交流」というテーマで、真っ先にあるエピソードが浮かびました。

2000年の夏。私が初めての留学をした時のことです。行先は中国・福建省の廈門（アモイ）。美しい海岸沿いの町、廈門で、たくさんの思い出が出来ました。その中でも、特に思い出すのは、廈門の人々の優しさです。顔なじみになった町の人々との会話は、心温まる楽しいものでした。



廈門留学時代の関村さん（右）

実は、廈門の人たちと心から打ち解けられるようになったのは、あるきっかけがあったからです。留学して間もない頃。町に買い物に出た帰り道。いつものようにバスに乗ると、小銭が無いことに気がきました。バスには両替機が無かったので、運転手さんに両替を頼みました。答えは「ダメ」。元々は1元のバス代を10元札で払えと言います。交渉の末、これから乗ってくる9人分のお金を集めた後で支払うことになりました。でも...誰も乗ってきません。とうとう終点に着いたので、観念しておれを出そうとすると、突然、後ろから女性の声がしました。「你是厦大学生吗？（あなた廈門大学の学生さん？）」。

驚いて、「对（そうです）」と答えると、その女性は、「私に払わせて」と言って、自分のお財布から1元硬貨を取り出して、さっと集金箱へ入れました。そして、素早くその場から去ろうとするではありませんか。「ありがとうございます！」急いでそう言いながら、彼女の後を追いかけてました。女性は、やわらかな表情で振り返ると、「気にしないで」と微笑んで、足早に去って行きました。見ず知らずの留学生に、温かく、そしてさり気ない優しさで接してくれたその女性の後ろ姿を、今でも鮮明に覚えています。それから、私はますます廈門の人が好きになり、心を開いて積極的に交流ができるようになりました。国際交流は、このような相手を思い遣る、さり気ない行動から始まるのかもしれませんが。大切なことを教えてくれた彼女、そして廈門の人たちに、今でも感謝の気持ちでいっぱいです。

異文化理解のためのプレゼンテーションの様様

私の小さな国際交流

岡内 直子

私は、りぼんの日本語支援スタッフとして、初級の方々と過ごして7年目になります。

難易度が高いと言われている日本語ですが、一生懸命に学ばれている学習者の姿をみて尊敬しています。

又、途中でやめられた方々とも、親しい友人として今でも交流が続いています。

学習者との交流を通して、未知の国への興味が芽生えたり、今までの世界観が変わったり、正に発見の連続のような充実した時間です。

私が10代の時に、初めてアメリカでホームステイをしました。その時は、ハンバーガーが大きい！というだけでも感動したものです。あれから何十年も経ち、世界が狭く小さく感じられる時代になりました。多少の事では驚くこともないでしょう。

それでも、お互いの経験を共有したり、楽しい時間を一緒に過ごせる事は、私にとって大きな喜びです。りぼんが縁で繋がっていく交流の輪が、私の人生に彩りを添えてくれています。

今後も、このような小さな国際交流を積み重ねていき、日本での良き友人、家族の様な存在になれば、と願っています。

コロナウイルス収束後、全ての活動が再開できる日を楽しみにしています。

日本、学習者の方の国々、そして世界中が、落ち着いた日常生活を取り戻せますように！



フレンドシップカフェでの岡内さん（左端）



当協会と私の関わりの発端は約 30 年前に遡ります。

その日、印西市内で或る国際交流団体（当協会とは無関係）の設立総会がありました。そこで現会長の吉原氏と出会い、同氏が青年海外協力隊のフィリピン派遣の OB であり、その後も会社員として 1980 年代にタイに駐在していたことを知りました。実は、私も青年海外協力隊員としてケニアに派遣され、その後、現在の国際協力機構（JICA）の仕事でタイに駐在していたのです。



JICA ジンバブエの仲間たちと 中央が川喜田さん

総会終了後、招かれた吉原氏のご自宅で、同氏のタイ駐在時代の写真を見せられて驚きました。その写真は、タイに駐在経験のある青年海外協力隊 OB が集まって、バンコク郊外までハレー彗星を見に行った時のものですが、なんと私もその現場にいたのです。運命的とでもいうか、実に不思議な 30 年前の吉原氏との出会いでした。

その後も、私は、2011 年まで海外駐在を繰り返していましたが、帰国後、吉原氏より当協会を手伝ってほしいとの誘いがあり、活動に参加するようになりました。

当協会は、創立以来、熱意あるボランティアの方々がバトンをリレーしながら、運営を継続しています。

私自身、この活動を通して多くの人と出会い、国際交流を楽しんでいます。これからも、当協会が印西市における国際交流活動の中心的役割を担い、さらに発展していくよう努力していきたいと思っています。



小学生イングリッシュトレセンで
活躍する協会ボランティアの皆さん
（印西市教育委員会提供）

私は今、日本語教室りぼんに所属して、外国の方に日本語を教えるボランティアをしています。

外国語が全くできない私ですが、市の日本語ボランティア養成講座の時に、「日本語だけで大丈夫です。」と言われたのでやってみることにしました。

一番初めの受講生は、中国の同年配の女性で、身振り手振り、絵に描いたりしながらの学習。その内、少し日本語がわかる中国の方が参加するようになり、時々通訳してもらいながら学習が進んでいきました。

たくさん失敗もし、どうすればわかりやすく教えられるかと悩んだり、工夫して教材を作ったりしながらの日々。それでも学習が進んでいくうちに、受講生の出入りも何人かあり、アジア圏のいろんな国の方との出会いがありました。現在、長い方だと 5 年程の付き合いとなっています。



日本語授業中の橋本さん（右端）

このボランティアをされていて楽しいのは、旅行では知ることができない、生の文化や考え方に触れることができることです。

食べ物は勿論、学校や日々の生活の様子、冠婚葬祭の様子、いろんな行事の様子など、日本とは全く違うところや、似ているところを知ることができとても楽しいのです。

例えば、日本では女性に年齢を聞くのはタブーのようなどころがありますが、中国では年上には敬意を表さなければいけないそうなので「年齢は？」とすぐに聞かれました。

「手紙」や「愛人」という熟語は、中国では全く意味が違う「トイレットペーパー」や「配偶者」となり、中国から漢字は伝わってきたのになぜ意味が違うのかとても不思議です。

また、中国は広いので地方の言語で話されると中国人同士でも外国語と同じでわからないという事。日本にも方言がありますが、それに輪をかけたようなもののようなです。まだまだ沢山の文化の違いを知ることができました。

今は、みんな日常会話ができるようになり、勉強よりもおしゃべりが多く、互いにストレス発散しているような状況です。これもまた大事なことだと思います。

いま、支援スタッフ募集中ですので、外国の方と一緒に楽しく勉強してみたい方は、是非日本語教室に見学にいらしてください。お待ちしております。

日本に引っ越してきて、早いもので一年が過ぎました。友人は、「日常会話くらいはできるようになったでしょう」と言います。実は、正直な所、僕の日本語は、まだ初心者域を出ていません。

日常生活に便利なフレーズはいくつか覚えました。でも、その少ない日本語の表現さえも、怖くて、口に出せない時があります。今日は、なぜ、僕が日本語恐怖症になってしまったのかを書こうと思います。

日本に移住する前のことです。日本人の妻の里帰りに同行し、妻と義母と3人で食事に出かけた時のことです。洒落た日本料理店で食事を楽しんだ後、お酒の勢いもあって、覚えてたの日本語を披露しようと思ったのです。

こっそり、妻に声をかけ、これから言おうとするその言葉の発音を確認し、テーブルの上の伝票を片手に、ウェイターに向かって叫んだのです。「おかんじょー!」。いや、自分ではそう言ったつもりだったのです。

しかし、実際に僕の口からでた言葉は、「かんちょー」でした。

いつもより、自信たっぷりに、夕食時に賑わっているレストランで、「浣腸!」と叫んでしまったのです。

次の瞬間、店中のお客さんの会話がパタッと止まりました。そして、彼らの視線を一身に浴びながら、「しまった、何か変なことを言ったらしい」と気づいたのです。自分が何を言ったのかを妻に教えてもらって、恥ずかしさに顔から火が出そうになりました。

それ以来、僕の乏しい日本語を使うたびに、喉がきゅーっと締め付けられるようになります。

そんな僕のユニークな日本語練習法をお教えしましょう。非常に珍しい、他では聞いたことのないような、オリジナルの練習方法だと思います(次のようなシチュエーションでしか使えない方法ではありますが)。

当時、僕は「ごめんなさい」という言葉を覚えようとしていました。

スーパーマーケットに行くと、僕は、ショッピングカートで、意識的に他の人のカートにぶつけるのです。もちろん、ガツンとではなく、コツンと、優しく、ちょっと触れる程度に。そして、心をこめて言うのです。「ごめんなさい」。

こっちでコツン、「ごめんなさい」。あっちでコツン、「ごめんなさい」。

相手にちゃんと通じた時は、自分が日本語の達人になったような気がしました。

今でも、日本語は難しいです。でも、学びたいという気持ちはあります。続けて練習すると、話せるようになった気分になりますが、ちょっと怠けるとすっかり忘れてしまいます。

こんな僕ですから、今度あなたに会う時には、「こんにちは」しか言えないかもしれません。

(訳・ディシピオ久枝)



1990年代の初めごろ、シリコンバレーと呼ばれるアメリカ・カリフォルニア州クパチーノにあるアップル社を訪問した時、受付の男性の服装がジーンズにTシャツであったことに随分驚いたものです。しかし、金曜日のみカジュアルな服装での勤務が許されるカジュアルフライデーを経て、今ではビジネスカジュアル、つまり何曜日でも従業員がカジュアルな服装をするのを認めている企業がアメリカで増えています。やはりその方が業務効率も上がるでしょう。また精神的にも人とはより打ち解けたカジュアルな気持ちで触れ合え、本音で交流できるのではないのでしょうか。



ローマの弓道の友人たちと 前列右から2人目が厚朴さん

最近ではIT化の進展により、例えばオンライン・ショッピング等、人の行動様式が変化しています。また新型コロナウイルスの感染拡大を抑制するため、人と人との接触を極力避けなければならないニューノーマルと言われる新生活様式が始まり、それは当分の間継続しなければなりません。

我々は、人との交流において物理的距離を取る事を余儀なくされても、心的にはより触れ合っていたいものです。カジュアルでフレンドリーな交流や触れ合いが必要です。それは相手が日本人であろうと外国人であろうと同じであることが本当の国際化であり国際交流です。今後はサプライチェーンやグローバルゼーションの見直しにより人々の動態に変化があるかもしれません。そんな中でも海外から来た人を、海外から来た人と意識しない社会が真の共生・共存社会であると私は考えます。



交流バスツアー アンデルセン公園

20 年前、設立当時の当協会が目指したのは、国際交流まつり、コンサート、社会見学バスツアー、外国料理教室などを開催して、印西市民と外国人市民とが一緒に遊び、顔見知りになることでした。一方、当時は今のように海外の観光地や市民生活がテレビ放映されることは少なく、インターネットの利用も限られていました。そこで、私が取り組んだのは「異文化理解講座」を開催し、印西市民と外国人市民に、相互の国のことを良く知ってもらうことでした。

今、世界には 194 カ国と 12 地域があるといわれていますが、所在地・民族・成り立ち・宗教などの要因で、それぞれの歴史・言葉・文化・生活が異なります。これらを正しく知れば、外国人との出会いも上手く進み、お互いを理解し合うことができます。講師は東京基督教大学の留学生や講師、市内在住の外国人、商社・JICA・留学などで外国滞在の経験を有する日本人でした。

私が「異文化」という言葉に初めて触れたのは、48 年前、青年海外協力隊のボランティアとしてフィリピンに派遣が決定し、派遣前研修で異文化理解の授業を受けた時でした。そこでは、「人に会った時、日本人は礼をする。外国人は握手する、ハグをする」、「日本人は宗教に関心が薄い。外国人には信心深い人がいる」、「日本人は箸で食事する。外国人はナイフとフォークで食事する、手で食べる」、「日本では水道水がそのまま飲める。外国では一度沸かしてから飲む」などの例を通して日本と異なる文化を尊重することの重要性を学びました。

私はその後タイを含む 6 か国に約 14 年間駐在し、仕事をしながら、異文化を学び、そして友人ができた、楽しい生活を送りました。勿論怖い目にも遭い、病気もしました。今思うに、異文化理解の基本は、やはり愛情をもって、外国人と接することでしょう。

トピックス

東京基督教大学の留学生に お米を贈りました

2020年7月22日、当協会は、コロナ禍の中、大学の寮内で不自由な生活を送っている東京基督教大学の留学生の皆さんを支援するため、お米110キロを同大学のフードバンクに寄贈しました。

このお米は当協会理事の橋本千代子さんが丹精込めて育てたもので、留学生のために役立てて欲しい、と快く提供されたものです。

これからも、当協会は、コロナウィルスの早期終息を願いつつ、当協会の会員でもある同大学の留学生の皆さんを応援したいと思っています。

フランク・シナトラは、シカゴの街を My Kind of Town と謳い上げました。「僕のお気に入りの街」とでも訳せばよいのでしょうか。小さな頃から、本場アメリカの野球が気になって仕方がなかった私にとって、1982 年から 3 年間で過ごしたシカゴは、さしずめ My Kind of “Baseball” Town でした。



シカゴには長い歴史と伝統を誇る二つの大リーグのチームがあります。そう、カブスとホワイトソックスです。私の応援するチームは、ホワイトソックス。人気の面ではカブスに一步譲るチームに肩入れする理由は単純でした。

「野球は太陽の下でやるもの」との球団オーナーの信念を忠実に守り通して、カブスの本拠地リグレー・フィールドには、1914 年の開業以来 1988 年までの長きにわたり照明設備がなかったのです。そのため試合はデーゲームのみ。それに対して、平日のホワイトソックスの試合はもっぱらナイトゲーム。仕事が終わるや否や、米国人スタッフのロン・パリス君や親しい仲間と誘い合わせて、ちょっと物騒な一角にある本拠地、コミスキー・パークに駆け付け、ビールとホットドッグでワイワイ騒ぎながらアメリカ野球の迫力と雰囲気酔いしれたものです。

今でも、一步スタンドに足を踏み入れたときの芝生の鮮やかさや、オルガンの音色と観衆のざわめきが織りなす、あのワクワクするような喧噪を昨日のこのように思い出します。まさに、私にとって夢の空間、「フィールド・オブ・ドリームス」でした。

やがて、私にカナダのバンクーバーへの転勤が命じられ、程なくして、あのロンも家族と一緒にシアトルに移り住みました。それ以来 35 年が過ぎ、彼とは 2 度と会う機会はありませんでしたが、今なおシカゴでの交友の日々がフラッシュバックしてきます。

世界が新型コロナウイルスの感染拡大と戦う今、ナイスガイだったロン、上品な奥様、可愛い 2 人のお子さんの無事と安全を祈らずにははいられません。

市民より和紙人形の寄贈がありました

国際交流に役立ててほしいと、一女性市民から当協会に和紙で作った日本人形 30 体の寄贈がありました。

協会では大切に保管し、日本文化紹介のためイベントなどの機会に展示する予定です。





会員からのお便り

ペルシャ料理を楽しむ会

河原 和栄さん

「ペルシャ料理を楽しむ会」に夫婦で参加しました。「楽しむ会」といっても、食べるだけでなく調理もします。日本に長くお住まいの講師の方が日本語で説明し、指導して下さいました。

メインのゼレシュクポロモルグは、バスマティライスをサフランで色付けし、骨付き鶏もも肉のトマト煮を添えたものです。このサフランライスに混ぜたベリー（ベリーの一つ）がとても印象に残りました。レーズンより小ぶりで赤みがかっていて程好い酸味があり、黄色いサフランライスと相まって、見た目にも良いアクセントになっています。他に、きゅうりとミントを使った清涼感のあるサラダ、スーパーフードのチアシード入りのドリンク（見た目はちょっと...ですが）もいただきました。

印西に居ながらにして海外の家庭料理を楽しむことが出来る貴重な機会。次回開催も楽しみにしています。

世界が広がる出会い

藤村 佳澄さん

私が印西市国際交流協会に入会したきっかけは、仕事と育児以外の趣味の時間が持てない日常を変えたい、好きだった英語にもう一度ふれたいとの思いからでした。

協会では知り合ったメンバーは皆個性豊かな方々で楽しく、毎回話題が尽きません。

入会して感じた事は、外国人に英語で話したいけれど、上手くニュアンスを伝えられないもどかしさ。つくづく勉強不足を感じました。

反面、様々なイベントに参加する事で、旅行・スポーツ・料理等自分の好きな事を通して気持ちを通わせる事もできると思いました。

又、入会してからは、色々な事に前向きになり、視野が広がりました。

これからもイベントには子供達も連れて参加し、国際交流の素晴らしさを伝えていきたいです。

自粛中のつぶやき

中 春枝さん

今日も防災行政無線放送の車が通りを走っています。新型コロナウイルス感染がこんなに世界中に蔓延するなんて思いもしませんでした。今、孤独感、抑うつ、精神的混乱の状態の中に置かれている人々が多くいます。

でもこの不安は、永遠に続かず、トンネルは必ず抜けられると希望を持っていきたいです。

先日、数年前に退会した学習者からショートメールが届きました。短いたどたどしい日本語ですが今の状況を心配してくれていました。とても嬉しく思いました。こんな時、自国と離れて生活している人はどんなに不安な事でしょう。

さて、数日前ある冊子の記事が目に残りました。[傾聴]についてです。ボランティア活動の参考にもなるかと思いました。

話を聴く時は、

- ・自分の事は脇に置く。
- ・相手にしっかり向き合う。
- ・相手のペースに合わせて聴く。
- ・自分の判断を入れず相手の思いをそのままうけとめる。
- ・相手の身になって聴く。

活動する中で落ちこむ時はありますが、逆に元気の素も貰っています。

自粛の期間、不安、疲れも溜まりますが、コロナウイルスの終息を祈りながら1日、1日自分の出来ることを少しずつ進めていければ良いとおもいました。

クライミングワールドカップに参加して

中山 たかえさん

2019年10月26～27日に松山下公園体育館で「クライミングワールドカップ リード」が開催されました。印西市では3度目だそうです。

私は、2020オリ・パラの成田空港での都市ボランティアの予行演習として、会場案内のボランティアとして参加しました。

そして、その合間には競技を見ることも出来ました。2日目の決勝は、照明、MCのトークそしてアップテンポの音楽が流れ、まさにアーバンスポーツだと実感しました。

迫力ある世界レベルの戦いを間近で見ることができ、貴重な2日間となりました。

旅人の視点、生活者の視点

治田 三夏男さん

旅人にとって、その国の人、自然、食べ物そして歴史に触れることはまさに異文化体験そのものであり、旅の醍醐味の一つです。

私も、昔からシルクロードに憧れてインドからパキスタン、アフガニスタンを通してイランまで、奈良の都からローマまでを目標に中国は当時人気のあったNHKの「シルクロード」のルートをたどって西域や、モンゴルの草原の道を旅してきました。

しかし、それはあくまでも旅人であって、言葉は通じなくても行けば何とかなるもんだという気持ちもありました。でも、今思えば言葉がわかればもっと豊かな

な旅ができたのと思うこともしばしばです。

翻って在留邦人約 140 万人、在留外国人 280 万人以上を数える現在（2018 年度）、この人達は旅人ではなく、生活者です。その国の言葉がわからなければ日常生活にも不自由することもしばしばです。印西市でも、2020 年 7 月末現在、63 カ国・地域、約 2,300 人の外国人市民が生活しています。

日本語教室りぼんは市内在住の外国人市民に対して、日本語を学ぶお手伝いをしています。日本語は全く初めてという人、より深く印西市を、日本を知りたいという人、お友達を作りたいという人、早く仕事につきたいという人、その思いはそれぞれです。でも「日本語」がわかればその道はもっと身近なものになるはずです。私たちは、生活者の視点でフレンドリーに日本を学ぶお手伝いをし、ともに学びあうことを通して小さな国際交流ができればと思っています。

イングリッシュトレセンに参加して 砂田 加代子さん

令和元年 7 月、2 回目のイングリッシュトレセンに参加しました。東南アジア出身の 3 名の ALT の先生のお手伝いです。小学生の児童の英語のゲームのカードを並べたり、児童を促したりの簡単なヘルプです。

ネイティブの先生という事で、皆、瞳をキラキラと輝かせ、とても楽しんで活動していました。自らの子供時代と比べ、つくづく良い時代になったものだと、隔世の感がありました。

今はお金を出せば何でも手に入る時代。美味しいもの、流行の洋服、旅行など、それはそれで確かに楽しい幸せな事です。しかし、コツコツと日々努力を重ね、その結果身に付けたものこそ人にとって最高の幸せではないでしょうか。例えば勉強して得た英語で、外国人と意思の疎通が図れた時、パッと目の前の世界が広がる気がする事でしょう。

成田に近い印西市、30 年～50 年後にはどんな変貌をとげているのでしょうか・・

外国人も更に多くなり、英語が必要なシチュエーションも増えてくると思います。どうかこのトレセンのような機会が更に増えることを切に願っております。

新聞記者を経験して

小林 利康さん

大学時代、新聞社でアルバイトをしたのを契機に、ほぼ一貫してメディアに関係した仕事をしています。最初は、学生時代に英字新聞ジャパントタイムズでアルバイトをしました。外国人編集者も多く、日本語の他、片言の英語で話すこともありました。この時の経験が、海外の方々と仲良くしたいというきっかけになりました。大学 4 年生の時には、約 1 か月間ヨーロッパを旅行し、いろいろな国々の文化を感じることができました。

大学卒業後は金属関係の新聞社に勤めました。鉄冷えといわれる時代で、あまり面白い業界ではありませんでしたが、実際に製鉄所（高炉）を見学した際には、真っ赤に燃える鉄がみるみる加工される姿に感動しました。一方、日本には、金山といわれる山が現在もあります。北海道や鹿児島で金鉱脈が見つかったというニュースに誰よりも早く触れることができ、電卓をはじきながらロマンを覚えました。

その後、ヘルスケア関連の新聞・出版社に入社し、医療の中でも特に診断分野の取材や企画に係わりました。約 30 年間新聞部門で働き、全国の病院、医薬品関連企業、医療系の学会を取材しました。

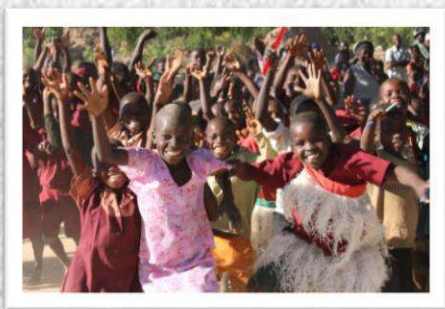
その後、数年前に定年となり、別の出版社に転職しました。「鉄は熱いうちに打て」といわれます。金属関係の仕事にも触れたものの、ぬるま湯につかった生活が長く、人脈はそこそこできたものの、満足な文章を書く能力までたどり着けなかったと思っています。最近、講演する機会が増え、もしかしたら「書く」よりも「しゃべる」方がいいのかなと思いつつ、昨年からは印西市国際交流協会に入りました。

新聞記者や旅人を通して、47 都道府県すべてに参りました。地名を聞くとその地域の情景が思い起こされます。今後、協会の活動を通して日本の良さを国内外の皆さんに知っていただけたらと思っています。



フォトギャラリー

会員が撮った海外の情景



日本語教室りぼん

日本語教室りぼんは、2001年5月にスタートして以来今年で20年目を迎えました。その間、多くの外国人市民が日本語を学び、友達を作って巣立って行きました。

現在では、市内5か所で5教室を開催しており、学習者は18か国1地域、約80名、と20名のスタッフ（2020年7月現在）がともに活動しています。

各教室とも学習者の日本語のレベル、目的に沿って様々な活動を通してお友達作りや生活に必要な生きた日本語を学んでいます。

* * * * * りぼんのあゆみ・思い出を語る * * * * *

國方 滋美さん

印西市そうふけ公民館の「日本語ボランティア養成講座」からスタートしたのが「日本語教室りぼん」です。3年後に私が参加したときは、学習者4名、ボランティアが3名でした。当時、私たちの合言葉は、「地域に住む外国人の居場所づくり」でした。

外国の方が地域に来たとき、日本人以上に寂しさ、孤独感を感じます。毎週1回日本語を勉強できる場所があって、そこに行けば自分と同じような外国人とよばれる人たちがいる。そこで友達を作ることができます。

NPOを作ったり、印西市国際交流協会に所属するなど、20年の歳月を経て現在の「りぼん」が地域で活動を続けていることを嬉しく思っております。



「りぼん」も今年成人を迎えたんですね。速いものです。

私は2007年に「りぼん」に参加させていただきました。当時、クラスは水曜日のみ、先生は皆女性、学習者も主婦の方がメインだったと記憶しております。

まだ再雇用の身分であった私は水曜日クラス外の一部の学習者の指導、「中国人農業技術研修生の受託日本語研修」のような特別研修に参加させてもらっていました。

その中で最もやり甲斐、達成感を味わわせてもらったのが、米国人英語教師のKacieさんでした。彼女は20才位。子供が大好きで、小中幼のNative Teacherとして印西市に派遣されて来ていました。彼女は在日中に日本語をマスターしてやろうと極めて積極的で、自分の授業の合間を縫って精一杯日本語習得に時間を割いていました。

私は彼女の熱意にほだされて青少年支援センターに教室提供を依頼したり、我が家の一室を提供したりして週2回以上のレッスンを実施しました。内容も日本語能力試験2級から1級、彼女や私が探した日本の習慣、文化に関する教材と幅広く内容の濃いものでした。普段は優しい彼女ですが、自分の無力、非力を感じた時はあたりかまわず号泣する程の負けん気の強い女性でした。

そんな彼女は帰国して高校の日本語教師となり、音楽家のご主人との間に一児ももうける母親となっています。ダラスでの結婚式には私達夫婦も出席させてもらいました。やってよかったと感じた「りぼん」最高の思い出です。

こんな機会に遭遇できた私は幸せでしたが、これからも「りぼん」には色んなドラマが散りばめられてくると思います。皆さん、更なるご活躍をお祈り致します。

三木 盛さん

日本語教室りぼん 作文発表会

りぼん受講生の皆さんが日本語の作文にチャレンジしました。拍手！！

日本に来て驚いたこと、そして、りぼんのこと ラニル・ラクブリア（スリランカ）

私はラニルと申します。日本に来てからもう6年経ちました。日本に来て初めの頃は、日本の生活に慣れないために、驚いた事がいろいろありました。

私は日本で見た一番いいことは、日本人はよく挨拶することです。毎日おはようございますと、ありがとうございます、の言葉をよく聞きます。スリランカでも挨拶することが大事です。

ルールを守ることやマナーが良いと思います。日本でゴミを出す方法がいいです。日本では道路にゴミを捨てないから綺麗に見えます。自分のゴミは自分で持って帰ることも初めて見ました。スリランカではゴミの問題は色々あります。

私は最初日本で日本語の勉強をして、仕事をしましたが、そのあとは勉強をしませんでした。しかし、私の奥さんがりぼんのクラスに参加して治田先生になっていたのもので、それで私もりぼんに入りました。

りぼんに入ったらいろいろな国の友達と知り合いになりました。クラスでは皆と色タイベントに参加したり、旅行にいきました。日本と他の国の人のことや食べ物の違いに驚いたりしました。いい勉強になりました。ありがとうございます。

感謝

高橋ユエン（ベトナム）

私はベトナム出身で、来日8年になります。

8年前、日本語が全くできなかったのもので、生活に対して少し困りました。それで、日本語教室りぼんに入りました。最初は勉強が難しかったのですが、先生や同じグループの生徒達が一生懸命説明してくれて、だんだんわかるようになりました。勉強だけでなく困ること、相談したいこともりぼんでやってくれて、本当にありがたいです。毎週りぼんに通うことを楽しみにしています。

いつも、ありがとうございます。



日本語の難しさ

ラン・グエン（ベトナム）

日本に1年半いるものの、あまり日本語がペラペラ話せるようになりませんでした。そのうえ、読むことと、書くことが難しいです。

書き方が一つしかないベトナム語と比べて、日本語のひらがなとカタカナ、漢字は覚えるのにすごく障害に見えます。それに、一つの漢字には、読み方が複数あります。私は日本語の難しさを克服したいです。

友達の推薦で、日本語教室りぼんで勉強しています。ここでは、先生は熱心で、親切です。勉強ばかりでなく、いろいろなことを教えてくれます。すべてのレッスンが楽しく、うれしく、そして喜びです。

最近、コロナウイルスがあるので、授業ができなくて残念です。コロナが早く終わりますように。そして、日本語教室りぼんに早く戻って来たいです。

美しく楽しい「印西市」

呉 愛華（中国）

4年前、私が印西市に来たときは、桜が咲く4月でした。5月にはカラフルなツツジが迎えてくれました。豊かな緑を背景に、この小さな街は特に美しいです。この街で文化的な生活を探していた時、「日本語教室りぼん」と出会いました。先生たちは熱心に私たちを導き、楽しくコミュニケーションをとってくれました。忘年会ではいろいろなゲームもしました。日本語教室りぼんで、沢山のことを学び、沢山の友達もできました。そして私の忘れられない幸せの瞬間となりました。このように、印西市は教育環境はいいし、親切な防災放送もよく聞こえ、暮らしがとても便利な街です。友達と一緒に、この美しい印西市で過ごしていくのをこれからも楽しみにしています。そして、印西市国際交流協会が日本在住の様々な国の友人たちに、良いコミュニケーションの場を提供してくれていることに感謝します。

日本での生活

スラン・ティ・ニャット（ベトナム）



誰でも自分の目標を持って、日本へやって来ます。

農業と日本が大好きな私は、4年前にベトナムから日本に来て、印西市で農業関係の会社で働いております。今までテレビや写真でしか見たことがな

かった日本を、今は毎日見られます。春は梅と桜の花がとてもキレイです。秋には、紅葉が素晴らしいです。友達と一緒に過ごしたキャンプの楽しい時間が忘れられません。自然だけではなくて、日本のインフラ（社会基盤）は充実しているので、日本での生活はかなり快適です。例えば、宅配便は1日か2日で届くのはとても便利だと思います（ベトナムの宅配便は1週間位かかります）。又、大阪や青森へ行くのに新幹線を利用しましたが、非常に速くて快適で感激しました。

しかし、日本で驚いたこともありますね。印西市に来たとき近所を散歩しましたが、不思議なことに妊婦さんを見かけませんでした。2カ月後に初めて妊婦さんを見ました。人出の多いショッピングセンターとか、スーパーマーケットでさえ妊婦さんをあまり見かけません。ベトナムと比べると、これが一番違う点かもしれません。

高齢化と少子化はやはり日本社会の問題であると実感しました。新聞によると、2060年に日本の人口は25%減ることが予測されると書いてありました。もしこの予測が現実になったら、本当に残念なことだと思います。

外国人たちは日本へ来て、仕事以外にも日本の美しさを体験したいのです。私にとって、日本語はとても美しい言葉です。国際交流協会の日本語教室「りぼん」で日本人のボランティアの先生に日本語を習っています。

多様な話題について日本語で喋ったり、国と国の比較をしたりします。日本語能力試験を受けるクラスもありますし、また、初級を学ぶグループもあります。勉強とともに、様々なイベントもあります。成田山新勝寺へ初詣に行きました。日本料理を作るイベントもありました。それに、2、3カ月に一回、印西市の国際交流協会のイベントにも参加しています。

先生たちのご指導で、日本語と日本人の生活習慣の理解が深まり、楽しく暮らしております。これから仕事を通じて、又日本語の習得を通じて、日本をもっともっと理解したいと思っております。

コミュニケーションについて

王 曉梅（中国）

りぼんの佐藤先生のグループに入ったのは三年前の秋でした。毎週水曜日に生徒達は先生が用意した新聞を読んだりその日の話題について自由会話をしたりして楽しんでいます。ただの二時間ですが日本の時事がわかるし国籍が違う方でも直接対話できて国際交流もできます。

現在ウイルスのせいで我々の生活は大きく変わってしまいましたが、これから世界がどう変わっても人々のコミュニケーションは欠かせないと思います。人間は心と心が通じ合うことで幸せを感じるものなのです。

印西市国際交流協会との出会い

許 佩紅（中国）

私は、2年前家族と一緒に印西市に引っ越してきました。

新しい場所で何もわからず、不安な毎日でした。

偶然の機会で印西市国際交流協会を知り、日本語教室に通い始めました。

教室には、いろいろな国の人達や自分と同じ国の人など、沢山います。言葉が通じなくても、笑顔で、みんなと一緒に勉強したり、話をしたりしてとても楽しいです。

たまには、友達と一緒にいろいろな国の料理を作って食べたり、生活の悩みなどを相談したりでき、日本での生活の不安がだんだん減ってきました。

これからも友達や先生と一緒に、もっと日本語と習慣などを勉強して、楽しい生活を過ごしたいと思います。



おせち料理

周 圓 (中国)

日本に来る前に、ネットでおせち料理の写真を
見て、素晴らしいと思いました。

年末に初めて主人の実家に行ったとき、すごく
楽しみにしていました。中国の新年料理は12月31
日の夜に食べるからです。でもずうっと待って
いたのに、夜ご飯は蕎麦しかありませんでした。主
人が「これは年越し蕎麦で、長寿延命の意味があ
り、おせち料理は新年最初の日に食べるんだよ。」
と教えてくれました。

次の日の朝、やっとおせちが来ました。でも私
はがっかりしました。オシャレだけど、全部冷た
かったからです。中国の新年料理は、色々な肉、
魚、エビ、カニで作った温かいものばかりです。
おせちは美味しかったけど、新年に冷たいもの食
べたら心も冷たくなりました。

今、日本で10年暮らし、冷たい料理や水にも慣
れました。おせちが冷たい理由も、昔の主婦は、
洗濯機や炊飯器など便利な物が無く、家事するの
もすごく大変でした。だから、新年ぐらいは休め
るように事前に料理を準備していたとわかりまし
た。

年中無休だと思っていた日本の主婦の仕事も年
1回の休みはあったのですね。

りぼんとわたしと先生たち

チュ・ロアン・オアン (ベトナム)

私は日本人と結婚してから日本に来ました。も
う1年5ヶ月です。主人はベトナム語も英語も話
せないし、最初私も日本語出来なかったんです。
本当に色々と困りました。これからも日本にずっ
と住むので、どうしようかな、と悩みました。

学校へ行くと高いし、でも、リボンの先生たち
のおかげで、日常会話もできるようになりました。
生活も楽になったんです。助かります。先生たち
に心から感謝しています。いつも応援して頂いて、
自分の国に住んでみたいに感じて心強いです。

リボンの先生たちはみんな一所懸命生徒たちの
ために教えてくれています。生徒が一人だけでも
教えていただけます。

ある時生徒が忘れて来なくて、しかたなく先
生は家に帰ったんです。それでも次回また来てく
れて。本当に優しいです。なんで先生たちが一所
懸命ボランティアできるかなと思って、お金も少
ししか貰えないし、ガソリン代もかかりますし。
先生たちは、私たちの環境をよりよいものにし
てくれて、有意義な人生にしてくれています。とても
尊敬しています。

わたしも将来、先生たちみたいになりたいです。



語学講座

■外国語

問合せ・申し込み E-mail : inzai.ifa@gmail.com / TEL : 070-5519-1661

言語	クラス	時間	場所
英会話	水曜日 中級クラス	10:00 ~ 12:00	中央駅前地域交流館
	金曜日 初級クラス	10:00 ~ 12:00	中央公民館
	金曜日 中級クラス	13:00 ~ 15:00	中央公民館
	月曜日 入門クラス(新設)※1	14:00 ~ 16:00	協会大森事務所 ※2
中国語	金曜日 初・中級クラス	10:00 ~ 12:00	中央駅前地域交流館
	月曜日 入門クラス	14:00 ~ 16:00	協会大森事務所 ※2
韓国語	木曜日 初級クラス A	10:00 ~ 12:00	中央公民館
	木曜日 初級クラス B	12:30 ~ 14:30	中央公民館
	月曜日 入門クラス	11:30 ~ 13:30	協会大森事務所 ※2

※1 英会話 月曜日入門クラス

これから英会話を始めたい方、英語の基礎から学びたい方のために開設しました。

※2 協会大森事務所 住所：印西市大森 3370（大森保育所跡）

■日本語教室りぼん

クラス Class 学習班	じかん 時間 Time 時間	ばしょ 場所 Place 地点	れんらくさき 連絡先 Contacts 联系人
かようび 火曜日 Tuesday 星期二	10:00 ~ 12:00	ふれあいセンター印旛 いんざいし み せ 印西市美瀬1-25	うめだ 梅田 080-3154-2821
すいようび 水曜日 Wednesday 星期三	10:00 ~ 12:00	ちゅうおうえきまえち いきこうりゅうかん 中央駅前地域交流館 いんざいしちゅうおうみなみ 印西市中央南1-2	はやかわ 早川 0476-36-7836 おかべ 岡部 080-5521-7064
もくようび 木曜日 Thursday 星期四	10:00 ~ 12:00	ちゅうおうこうみんかん おおもり 中央公民館 大森 いんざいしおおもり 印西市大森3934-1	はるた 治田 090-2548-3317 おおの 大野 090-2253-5330
どようび 土曜日 Saturday 星期六	10:00 ~ 12:00	そうふけ公民館 はら いんざいしはら 印西市原3-4	はるた 治田 090-2548-3317
にちようび 日曜日 Sunday 星期日	9:30 ~ 11:30	こばやしこうみんかん こばやし 小林公民館 小林 いんざいしこばやしきた 印西市小林北5-1	とおだ 遠田 070-6967-3391 はるた 治田 090-2548-3317

印西市国際交流協会は、印西市の市民と外国人市民がお互いの文化を理解し、尊重しあいながら、共に生きていける街を目指して様々な活動を進めています。皆様のご参加をお待ちしています。

■国際交流活動

- ・印西ワールドフェスト
- ・日本文化・歴史を楽しむバスツアー
- ・フレンドシップ・カフェ
- ・世界の料理体験、など

■学生の国際理解を深めるための活動

- ・小学生のイングリッシュ・トレセン支援
- ・中学生の国際交流支援、など

■語学講座の開催

- ・英会話
- ・中国語
- ・韓国語
- ・日本語教室りぼん

■外国人のための無料相談

■通訳・翻訳支援



印西市国際交流協会

〒270-1315 千葉県印西市小林浅間 1-5-2 TEL 070-5519-1661 FAX 0476-42-7310

ホームページ : <http://www.inzaiifa.com> E-mail : inzai.ifa@gmail.com